

**グラスルーツグローバルゼーション**  
**－草の根・地域からの人類一体化の推進－**

広田ゼミナール

参加学生

19K012 于 有為	20K016 板垣 新之介
19K026 夏 鏡顔	20K019 井良沢 優人
19K032 黄 舟	20K025 大川 陸翔
19K069 张 娜	20K031 押野見 陽希
19K070 张 苗苗	20K044 川島 卓巳
19K301 于 涵	20K052 小林 拓生
19K304 郭 浩	20K068 瀬沼 隼輔
19K306 侯 建业	20K069 曹 博惠
19K402 許 書豪	20K070 曾我 大樹
20K010 井口 夏希	20K105 山口 航輝



## 目 次

はじめに

1. 全員の研究発表と共通テーマ「人類共生」の設定
2. スペイン・マルティネス氏と交流
3. ネパール・ラクシミ氏・ガイレ氏・ビノドゥ氏と交流
4. アメリカ・バーゲット氏と交流
5. バングラデシュ・エラヒ氏と交流
6. フィリピン・アベシア氏、ヒライシ氏、マアガホフ氏、チャベス氏と交流
7. スリランカ・ナヤニ氏と交流
8. 国際理解推進活動Ⅰ：「お菓子を入口にして学ぶ欧州3大国」
9. 国際理解推進活動Ⅱ：「こんなにあるフランスのお菓子。フランスってどんな国」
10. ユニセフへの協力
11. 姉妹都市を通じた国際交流の推進
12. Live in together on beautiful earth

おわりに

謝辞

## グラスルーツグローバルゼーション

### -草の根・地域からの人類一体化の推進-

はじめに

ゼミでは、国際交流活動、国際理解推進活動、国際支援活動などを自由に行うなか、随時、それらを「世界を知るための貴重なきっかけ（ゼミでは Global-related と呼んでいる）」にして、全員が深く関連した世界に関する事項を学習し、全員がそれらを自由に研究発表し、貴重な「国際教養（Global liberal arts）」として共有し、全員が知的レベルアップをはかるというスタイルが定着している。

Global-related<世界を知るための貴重なきっかけ>



Global liberal arts<国際教養>



Level-up<ゼミ生全員の知的レベルアップ>

以下の報告内容は、Global-related→Global liberal arts という流れで、作成されている。

#### 1. 全員の研究発表と本年度テーマ「人類共生」の設定



ゼミでは、「グラスルーツグローバルゼーション」という「キー・テーマ」のもと、これまで多様な活動を実施してきた。

今年度もまず全員が、あらゆる「サブ・テーマ」を設定し、自由研究し、活発な議論を、おこなった。

全員が最も注目したサブテーマは、ロシアのウクライナ侵攻の悲劇についてだった。

どのような経緯から、この悲劇は起きたのか？なぜ、同じ人間同士が、殺し合うのか？なぜ、対話では解決しないのか？国際機関等が調停できないのは、なぜか？全員で議論をするほど、悲しくなった。

この背景があって、今年の活動コンセプトを、「人類共生」とすることに決定した。「人類共生」こそ、世界中の人がねがう目標であるべき、と考えたからである。

草の根・地域から「人類共生」の文化を醸成しようと、決意した。アクション・プランとして、以下の4つを決めた。

第1に、世界から地域にきてくださった方と誠実に対話し、その方の母国について学び、最大限の敬意を示す。

第2に、未来を担う世代への国際理解推進活動を行う。

第3に、国際連合児童基金（ユニセフ）への応援に挑戦する。

第4に、地域の姉妹都市を通じた国際交流の推進に挑戦する。

#### ーロシアのウクライナ侵攻に関する学習ー

ロシアによるウクライナ侵攻の原因は、ウクライナがNATOに加盟することにあった。NATOとは、冷戦が激化した1949年に調印された北大西洋条約に基づき設立された自由主義・民主主義陣営の最大の国際軍事機構。

アメリカの軍事力がバックにあるという意味で、事実上、アメリカ・サイドの国際軍事同盟ともいえる。

NATOは「加盟国中の一国に対する武力攻撃は全加盟国に対する攻撃とみなして集団的自衛権を行使する」ことを規定。

NATOの成立経緯からして、旧ソ連・ロシアを主要な対抗国に想定して、作られた軍事機構であることは明確。

NATOの加盟国は、1991年末のソ連崩壊時に16カ国。その後、かつてソ連圏内にあった東欧諸国の多くが、NATOに加盟することで安全保障を確保しようと、NATOに加盟した。いわゆる、NATOの東方拡大である。NATOは、加盟国が30カ国に達した。

ソ連時代から「NATOへの警戒心をもっていたロシア」は、NATOの東方拡大を非難。しかし、NATO側はそれを無視し、ロシアに近接するエストニアをNATOに加盟させた。

さらに、ロシアにとって最重要な戦略地域、黒海・カスピ海に近接するジョージアが、NATOに加盟。

この事態に、ロシアは決定的な危機感を感じた。ロシアは、黒海のクリミア半島を侵略し、黒海権益・覇権の維持を狙う。

ウクライナはロシアと長い国境を有するロシア近接国で、黒海側に広大な領地をもっている。

ロシアにとって、ウクライナのNATO加盟だけは、許容できないことであった。2019年に、親米のゼレンスキー大統領が当選。ゼレンスキー大統領はNATOへの加入を表明した。ロシア・

ウクライナ間の外交調整は実を結ばず、2022 年 2 月、ロシアはウクライナへの侵攻を開始した。

当初、ロシアの強大な軍事力に、ウクライナは短期間で降伏すると考えられてきた。しかし、1 年近くも戦闘が継続されている。

欧州の大半の国、米国、日本等の自由民主の諸国家は、ロシアによるウクライナ侵攻を不当な行為と糾弾し、ウクライナ支援を開始。

## 2. スペイン・マルティネス氏と交流



スペインのマドリードからこられた、マルティネス氏と交流した。

マルティネス氏は、スペインの舞踊文化（フラメンコ）、ゴヤ、ドラクロア、ピカソなどの、スペインの偉大な画家達のことなども含め、スペインの歴史、文化、国際関係など、幅広く、解説してくれた。

わたしたちが驚いたことは、スペインでもお米がつくられているということだった。スペイン独自のお米と、海洋国家スペインらしい魚介類の食文化がむすびついて、世界的にも有名なパエリアが、生まれてきているのではないかと考えた。



### ースペインにおけるキリスト教とイスラム教ー

スペインは紀元前 3 世紀ごろ、ローマ帝国と貿易大国カルタゴとの戦場となった。その後、ローマ帝国は 200 年かけてイベリア半島を制圧。約 500 年間の属州政治が行われた。この時期から、スペインにキリスト教が広まっていったとされる。6 世紀ごろ、スペインにキリスト教国家が成立。

しかし、イスラム王朝のウマイヤ朝が 8 世紀前半にイベリア半島に侵入。その後も 11 世紀中ごろまでイスラム支配の影響を受け続けた。

11 世紀初頭、イベリア半島は北部・北西部・東部にキリスト教国家が、南部・中央部にイスラム国家が存在。

キリスト教国家は 11 世紀半ばから後半にかけて、南下の圧力を強化。いわゆるレコンキスタである。

キリスト教国家のカスティーリャ・レオン連合王国は半島中央部に進出。アラゴン・ナバラ連合王国は半島北東部を制圧。しかしムラービト朝の勢いはすさまじくサラカの戦いでカスティーリャ軍を壊滅させた。さらに 1094 年にはリスボンを制圧し半島南部を支配することになった。

12 世紀、アラゴン王国と新興のポルトガル王国が優勢となり東西からイスラム国家を攻略し南下。

13 世紀にムワッヒド朝がマリーン朝に滅ぼされると半島のイスラム国家は小国に分裂。勢いに乗ってレコンキスタを加速させ、グラナダのナスル朝を除きイスラム勢力を駆逐することに成功した。

1492 年にナスル朝の首都グラナダを陥落させレコンキスタは完了した。

### ー「世界帝国・スペイン」ー

1479 年カスティーリャ王国のイザベラとアラゴン王国のフェルナンドがそれぞれ即位。両者は婚姻し、アラゴンはカスティーリャへの吸収という形でスペイン王国（イスパニア王国）が成立。

1492 年、スペインが支援したコロンブスが、西回りインド航路の開発を狙うなか、新大陸の発見に成功。

イザベルは 1504 年、フェルナンドは 1516 年に亡くなった。二人には後継者がいなかった。長女ファナの嫁ぎ先であった神聖ローマ帝国からカルロス（イザベルとフェルナンドの孫）がスぺ



イン王位を継承。1516年にカルロス1世として即位。

スペインはハプスブルク家の領土に組み込まれ、さらにカルロス1世は、1519年に神聖ローマ皇帝に選出されハプスブルク帝国の繁栄の時代となった。

ハプスブルク帝国はオーストリアとブルゴーニュ地方、スペインさらには新大陸のアメリカ大陸を支配。

1519年、スペインはマゼランを世界に派遣。マゼランは南米を抜け、太平洋を横断し、フィリピンに到達。マゼランは死去するが、部下たちはインド洋を横断し、1522年に帰国した。人類史上、初めての世界レベルの渡航だった。

スペインは植民地帝国・海洋帝国となる。アメリカ大陸には黄金などの資源があると、期待されたので、多数の征服者（コンキスタドール）を送った。コルテスはアステカ王国（現在のメキシコ）を飲み込む。アメリカ大陸はブラジルを除きほぼスペイン領となった。

新大陸からもたらされた大量の銀は帝国に繁栄をもたらした

フェリペ2世が即位すると、スペインは全盛期を迎える。1571年にはレパントの海戦でオスマントルコを破り、スペイン海軍は無敵艦隊と呼ばれるようになった

1580年にはポルトガル王国も併合しポルトガルの植民地も獲得したスペインは、いわゆる「太陽の沈まぬ国」と呼ばれる世界帝国になった。

#### ー「スペイン帝国」の終焉と現代ー

1898年の米西戦争の敗北によって、スペインの世界覇権は決定的に失われて行く。スペイン国民も、スペイン帝国の終焉を実感する。

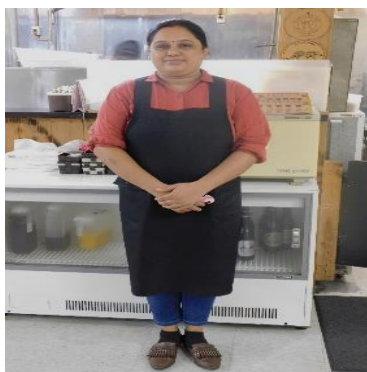
第1次世界大戦では、スペインは中立の立場をとり、モロッコの鉄鉱山開発を進めた。

1930年代、世界恐慌の時代、ナチスを手本としたファシズム勢力が台頭。それに対抗するように、反ファシズム戦線として、1936年スペイン人民戦線が結成。

フランコ将軍が反人民戦線政府の挙兵を宣言。ドイツとイタリアがこれを支援。1939年にマドリードを制圧。独裁的なフランコ体制を築いた。フランコは第2次世界大戦では中立を貫き、独裁を維持した。

1975年フランコが死去すると、ファン＝カルロス1世が即位し王政を復活。立憲君主制のもとで民主化を進める。

### 3. ネパール・ラクシミ氏・ガイレ氏・ビノドゥ氏と交流





ネパールからこられ、「マナカマナ」というネパール料理店を営まれている、ラクシミ氏、ガイレ氏、ビノドゥ氏と交流した。3人から、ネパールの歴史、社会、文化、国民性など、幅広く学習した。

ネパールは、エベレスト、ヒマラヤという雄大な世界レベルの自然資源に恵まれていること、山岳地帯以外は温暖な気候であることを、知った。

近年、長く続いた君主制を終了し、共和制に移行した事情も伺った。

モモ、アルビンジ、パゴータ、チャウミンといった、ネパール独自の料理を多数、いただきネパールの食文化を知ることができた。



#### —ネパールの国民性—

ネパール人は非常に人懐っこい性格の人が多い。大家族が主流で、仲間意識が高く、他人との助け合いが、生活の根幹となっている。

知らない人でもある程度会話をすれば、すぐに友達になれる。

#### —ネパールのヒンズー教文化—

ヒンズー教はネパールの国教。ネパールの人口の90%はヒンズー教徒。7~8%は仏教徒。ネパールでは、ヒンズー教と仏教が融合している面がある。

両宗教の教え、考え方、解釈が相互に浸透していること面がある。また、一人が複数の宗教に属することがある。

ヒンズー教ではシッダータをヴィシュヌの化身とみなしている。誰もが自分なりの方法で宗教活動に参加している。

#### —ネパールの仏教文化—

釈迦はネパールのルンビニで生まれた。仏教はネパールで重要な位置を占めている。ネパールにヒンズー教が伝わる以前から、仏教はネパールに広がっていた。

現在、カトマンズ渓谷には、ネパール仏教の栄華を物語る、仏教建造物が数多くある。ネパールの仏教は大乘仏教で、菩薩の教えに従うことで「涅槃」に至るという考え方が中心となっている。タマン族、グルング族、シェルパ族など高山に住む民族や部族を中心に仏教が浸透している。近年、ユネスコの支援を受け、釈迦の生誕地、ルンビニ園の修復が進行している。

### —ネパール新憲法—

2015 年、ネパールは新憲法を制定。新憲法は、国家を連邦民主共和国と定めている。国を 7 つの連邦州に分割する。大統領は、議会の多数派のリーダーが務める。

### —経済全般—

ネパールは農業国。国連が特定した 47 の LDC の 1 つ。ネパール経済は対外援助に大きく依存している。予算の約 5 分の 1 は外国からの寄付や融資から。

ネパールの主な産業は、農業、観光業、繊維、革靴、食品加工、タバコ、ジュート加工、レンガ生産、プラスチック製品など。

### —農業—

農業はネパールで最も重要な産業。GDP の約 33%を占める。農業人口はネパールの総人口の約 80%を占める。ネパールの主要な食品作物は、米、トウモロコシ、小麦、そば、ジャガイモ、サトウキビ、ジュート、綿、ナツメグ、ショウガ、ニンニク、ウコン、唐辛子など。

### —観光産業—

ネパールはヒマラヤ山脈の南に位置し、快適な気候である。ウォーキングツアー、登山産業が発達。

#### 4. アメリカ・バーゲット氏と交流



アメリカのオクラホマからこられた、ジョナサン氏と交流。

ジョナサン氏は、オクラホマなどのアメリカ南部や、アメリカ中央部の伝統的な考え方、文化について教えてくれた。

世界の多くの人がイメージするアメリカは、東海岸のニューヨーク、西海岸のロスアンジェルスであろう。

しかし、アメリカには、両海岸から離れた広大な、南部・中央部が存在する。そこでは、「仲間を大切にする文化」、「信仰を大切にする文化」、「自分なりに一步一步努力して自分を開拓・成長させていこうというフロンティアスピリットの文化」といった、アメリカを根底から支える「強固な良き伝統」があることを、習った。

ジョナサン氏とは、ロシアのウクライナ侵攻に関連して、「戦争阻止力としての軍事力」という高度なテーマでの議論も行った。



### ーアメリカの独立ー

コロンブスが 1492 年にアメリカ大陸を発見して以来、西欧諸国は植民地を形成していった。当初、アメリカ大陸には、東海岸 13 植民地のイギリス植民地があった。

イギリスはフランスとの戦争で財政が悪化し、アメリカ大陸植民地に課税を強化し、財政再建に取り組んだ。

アメリカ植民地側はこれに反発。植民地側は課税について、反発を強める。政治家・パトリック＝ヘンリーが「代表なくして課税なし」というスローガンを掲げた。

茶の専売権を東インド会社が独占したことに対し、ボストン茶会事件が発生。争いが表面化していった

1774 年、アメリカ植民地側は、フィラデルフィアで第 1 回大陸会議を開催。イギリス製品の不買と植民地同盟を決定。

これに対してイギリスはマサチューセッツに軍を派遣。レキシントンで戦いが始まった。アメリカ独立戦争の開始である。

レキシントンの戦いに勝利したアメリカ植民地側は、1775 年に第 2 回大陸会議を招集。司令官にワシントンを任命。しかし統率がとれていなかった植民地側は次第に劣勢になっていった。

苦戦が続く中で 1776 年、トマス・ペインが「コモン・センス」を発行。独立の正当性を訴えた。これによって独立のための世論を味方につけることが出来た。さらに大陸会議によってアメリカ独立宣言の採決がされた。

敗北が続いていたアメリカ植民地軍だったが 1777 年にサラトガの戦いに勝利すると戦局が逆転。

さらにフランス、スペイン、オランダがアメリカ側として参戦した。ロシアとも武装中立同盟を結び次第に優勢となっていった。

1783 年のパリ講和会議で、アメリカの独立が認められた。

## ー領土拡大と南北戦争ー

アメリカはフランスからルイジアナ周辺の地域を買収。さらにヨーロッパの戦いに加担しないモンロー主義という方針を取った。

「明白なる天命」として西海岸へと領土を広げていった。領土拡大は続き 1845 年にはテキサス併合。1846 年には米墨戦争に勝利しメキシコから西海岸を手に入れた。

しかし、大きな問題が生じていた。南北摩擦である。北部では産業革命によって、工業が大きく発展。南部では農業中心の綿花輸出が発展していた。南北では、奴隷の扱いに対して対立があった。

1820 年、北緯 36 度 30 分以北には奴隷州を作らないミズーリ協定を制定。しかし 1854 年に成立したカンザス＝ネブラスカ法で、奴隷を認めるかどうかは住民の意思で決定するという法律が、制定されたためミズーリ協定は効力を失った。

ストウ夫人は『アンクル＝トムの小屋』を執筆。これを機に奴隷解放運動は高まりを見せた。

リンカーンが、1860 年の大統領選挙で、奴隷制拡大反対を訴えて当選。この当選は南部を強く刺激した。これに対抗し南部は「アメリカ連合国」の発足を宣言。首都をリッチモンド、ジェファソン＝ディウスを大統領に選出。

1861 年ついに南北戦争が始まった。この戦争は経済力も高く人口も多い北軍が有利と見られていた。しかし、南軍の将軍たちが非常に優秀だったため、北軍の攻勢を防いだ。リー将軍は、北部の主要都市であるボルティモアやフィラデルフィアに迫る勢いまで見せた。

リンカーンは 2 つの手を打った。

第 1 に、ホームステッド法の制定。これにより西部の農民が土地を得られるようになり連邦政府を支持した。

第 2 に、奴隷解放宣言。この戦争の目的は奴隷の解放であると訴え、国内の世論を味方につけた。

1865 年 4 月、南部の首都リッチモンドが陥落。リー将軍も降伏した。南部は先頭の戦闘継続能力を失い降伏。

## ー進む西部開発と残る黒人差別ー

南北戦争終結後、西部開拓が本格化。1869 年、大陸横断鉄道が完成すると工業の中心である東部と西部が結ばれた。

奴隷解放宣言は 1865 年の憲法 13 条で確定された。1866 年の憲法改正で黒人にも市民権が与えられ、1870 年には黒人の投票権も認められるようになった。市民としての権利は認められたが、生活が改善されたわけではなく、南部では自由を制限する法律が出されるなど差別は根強く残った。

## ー世界強国への飛躍ー

近代化を進めていったアメリカは、マッキンリー大統領の下、米西戦争に勝利しフィリピンを獲得。さらに国務長官ヘイは中国に対し門戸開放宣言を発表した。

マッキンリーが暗殺された後大統領になったセオドア＝ルーズベルトは、中南米の国々に介入



し、キューバ、パナマ、ドミニカを保護国化していった。さらに太平洋にも進出していった。

### ―第 1 次世界大戦への参戦―

1914 年第 1 次世界大戦が起きると、アメリカは当初中立の立場をとっていた。しかし 1915 年に事件が起きる。ドイツの無制限潜水艦作戦によりイギリス客船ルシタニア号が沈没。アメリカ人も多く亡くなった。

国内世論は一気に反ドイツに傾き、連合国側として参戦。1919 年ドイツが降伏し第 1 次世界大戦は終了した。かつての覇権国であった、イギリスとフランスは国内が戦場になったために国力が低下していった。

### ―世界恐慌と第 2 次世界大戦―

1929 年、「暗黒の木曜日」と呼ばれる株価の暴落がウォール街で発生し、アメリカ、ヨーロッパ諸国は、恐慌へと陥った。

フランクリン＝ルーズベルトが、ニューディール政策を実施。全国産業復興法、農業調整法、金本位制の停止を軸に、国内の安定を図った。また、善隣外交政策を展開。1933 年にソ連を承認。保護国として置いていたキューバの独立を認めた。

### ―第 2 次世界大戦への参戦―

世界恐慌によってもっとも影響を受けていたドイツは、ナチ党による政治独裁が進み、植民地の獲得と再軍備に力を入れていった。

1939 年にドイツがポーランドに進行するとイギリス、フランスがドイツに対し宣戦布告を行い、第 2 次世界大戦が勃発。

アメリカでは 1935 年に中立法が成立していたが、フランスがドイツに降伏し、イギリスが孤立すると外交方針を変えはじめる。

1941 年、武器貸与法が成立。ドイツは日本、イタリアと三国同盟を結び、日本がイギリスやアメリカが植民地利権を持っている東南アジアへの侵攻を開始し始めた。アメリカは他の国と同調し、日本への石油の輸出を禁止した。

1941 年 12 月、日本軍は真珠湾攻撃を開始し、太平洋戦争が勃発。アメリカは第 2 次世界大戦に参戦することになった。

### ―冷戦―

第 2 次世界大戦が終わると、アメリカを中心とした資本主義国家とソ連の共産主義国家との間で対立が起きた。

最初のきっかけは、大戦終結後の世界の在り方を決めるヤルタ会談にあった。ヤルタ会談では、ポーランドやルーマニアといった東欧諸国はソ連圏に、ドイツはアメリカ、イギリス、フランス、ソ連の 4 か国での分割占領が決定した。

その後、トルーマンは、東欧で共産主義国家が次々と生まれていく様子を見て、危機感を持つ。アメリカは共産化が西ヨーロッパに及ぶことを防ぐため、莫大な経済支援を実施。マーシャルプ



ランである。さらに1949年北大西洋機構(NATO)を設立。対抗するように、ソ連側も COMECON、ワルシャワ条約機構を作った。

米ソ冷戦は、もとは一つの国だったにもかかわらず、資本主義陣営と共産主義陣営に分かれてしまった分断国家を、発生させた。ドイツは1949年、西ドイツと東ドイツに分断され、朝鮮半島では1948年に北朝鮮と韓国に分断された。ベトナムでも北ベトナムと南ベトナムに分かれた。朝鮮半島とベトナムでは代理戦争が勃発した

特に、ベトナム戦争(1955～1975)は、アメリカを疲弊させた。アメリカとソ連は歩み寄り緊張を繰り返しながら、決定的衝突を回避し、1990年、マルタ島で米ソ首脳が会談を行い、冷戦終結を宣言した。

## 5. バングラデシュ・エラヒ氏と交流



バングラデシュからこられた、エラヒ氏と交流した。エラヒ氏は、バングラデシュの歴史、政治、社会、文化など、幅広く教えてくれた。

私たちが驚いたことは、日本の4割ほどの国土面積のバングラデシュには、約2億人の人が住んでいるという事実であった。バングラデシュは、人口大国である。

バングラデシュの多くの方は、エラヒ氏もふくめ、イスラム教徒。

エラヒ氏は、未来を考えたとき、「人間を育てる教育こそ最も重要」と考え、学校を創立した。

私たちは、他者や社会、世界に尽くそうという、エラヒ氏の崇高なヒューマニズムに、感動した。



### ーバングラデシュの基本情報ー

正式名称バングラデシュ人民共和国。首都はダッカ。ベンガル語で「バングラ」が「ベンガルの人」。「デシュ」が国を意味する。つまり、「ベンガル人の国」という意味になる。

国土面積は 14 万 7000 平方キロメートル（日本の約 4 割ほど）。言語はベンガル語。ベンガル人が大部分を占める。ミャンマーとの国境沿いのチッタゴン丘陵地帯はチャクマ族などを中心とした仏教徒系少数民族が居住。

イスラム教徒が 88.4%。ヒンズー教徒・仏教徒・キリスト教徒は 11.6%。

### ーバングラデシュの独立ー

1947 年、インドがイギリスの植民地支配を終了させる。「英領インド地域」は宗教を基にヒンズー地域はインド。イスラム地域はパキスタンと分割された。

インドを挟み東西に存在したイスラム地域は、西パキスタンと東パキスタン（現在のバングラデシュ）となり「一つのパキスタン」とし独立。

しかし両地域は、経済や文化の面で違いが大きかった。様々な摩擦が発生した。ベンガル語でほぼ統一された東パキスタンに対して、西パキスタンがウルドゥー語を公用語にしたため、対立が起こった。

政治の中心になっていた西パキスタン側に偏った政策が実施され不満が高まり、東パキスタンは文化・経済・政治差別をうけ苦しんだ。

1952 年、パキスタン中央政府に対する東パキスタン側での抗議運動でバングラデシュの独立運動も動きが始まった。

1966 年、東パキスタンのムジブル・ラーマン率いる「アワミ連盟」が国防・外交・通貨以外を州管轄事項とする完全自治の 6 項目を基礎に東パキスタン側の自治権を主張。

パキスタン中央政府は脅威を感じムジブルを「印度と結託した反国家分子」として逮捕した。それをきっかけに東パキスタン側は 6 項目要求ゼネスト（ホルタル）が活発になった。

1970 年、東パキスタン側ではより反政府運動が加速。国民総選挙でアワミ連盟が大勝利。当時のヤヒヤー大統領は国民会議の延期を発表し引き延ばしをした。

1971 年 3 月 25 日、独立運動は盛り上がる。それを鎮圧するパキスタン政府・軍の間で独立戦争がはじまる。インドは独立を支持。4 月 10 日、ムジブルは「バングラデシュ人民共和国」として独立を宣言。ムジブル大統領に指名した。

しかし 5 月、パキスタン軍はバングラデシュ全土を制圧した。インドへの避難民が 100 万人を超えた。

その後、インドとパキスタンの関係が悪化しインド軍のパキスタンへの本格侵略を受け（第 3 次印パ戦争）パキスタン側が完全敗北。バングラデシュは独立を手にした。

### —独立達成から現在—

独立後民主主義国家を維持したが、1975 年クーデターによって、ムジブル大統領の暗殺された。その後、複数の軍人による、軍事独裁政権が継続。学生運動などによる民主化の波に押され 1990 年に、軍人独裁政治が終了。

1991 年民主化後、バングラデシュ民族主義党（BMP）とアワミ連盟による選挙による政権交代が複数回、現出している。

### —バングラデシュ経済—

主要産業は衣料品・縫製品産業・農業。実質 GDP は 2.852 億ドル。一人当たりの GDP は 2.503 ドル。2021 年度の輸出額は 339.7 億ドルで輸入額は 544.0 億ドル。輸出品は縫製品・繊維類・皮革・皮革製品・魚介類・野菜で縫製品が輸出の 85.1%を占める。

## 6. フィリピン・アベシア氏、ヒライシ氏、マアガホフ氏、チャベス氏と交流





フィリピンからこられた、アベシア氏、ヒライシ氏、マアガホフ氏、チャベス氏と交流した。

この方たちのグループは、フィリピンの文化を伝える活動をしている。フィリピンの音楽、ダンス、作法など、陽気で開放的なフィリピン文化を教わり感動した。

アメリカ領の歴史が長かった、フィリピンの方はみな英語ができる。しかし、フィリピンの伝統的な言語、タガログ語も健在で、よくつかわれていることを知った。





### —信仰が生活に馴染んでいる—

フィリピンの国民は、85%がキリスト教信者。その他、イスラム教を信仰にする人もいる。クリスマスは、キリスト教にとって重要なイベント。9月から、12月のクリスマスへの準備をする。

### —家族を大切にする—

フィリピンは、家族を大切にすることが多い。日常生活でも家族の用事は最優先。お休みや遅刻の理由が家庭の用事であった場合は快く受け入れる文化があり、おおらかで家族思いな方が多く、温かい視線やサポートがあふれている。

### —女性が活躍する社会—

フィリピンでは、働き者の女性が多い。2015年の国家統計局国際労働機関の報告書ではフィリピンの女性管理職の割合が47.6%とアジアトップ。女医さんなど専門職の数も非常に多い。

### —フィリピンの文化・イベントに全力的に—

フィリピンの方は、祭りやイベントが好き。フィリピンの方にとってクリスマスは重要なイベントで、24時間クリスマスのことだけを考えている程、熱意があり、世界一長いと言われるほど。9月から12月にかけてクリスマスソングが流れる。

クリスマスだけでなく、卒業式や誕生日などなどの行事を思いっきり楽しむのがフィリピンの国民性。

ホーリーウィークと呼ばれる大型連休がある。3月終わりごろまたは4月ごろの連休は、街なかの多くのお店が閉まり、家族と一緒に連休最終日となる日曜日のイースター(復活祭)を過ごす文化がある。

## ―食の文化―

フィリピンの方は、お米好きで、主食はお米。マクドナルドやケンタッキーなどのチェーン店で、ライスメニューが存在する。

また、10 時と 15 時ごろに『ミリエンダ』と呼ばれるおやつの時間があり、ミリエンダは甘いパンやトゥロンというバナナの春巻き、タホと呼ばれる豆腐に黒蜜がかかったスイーツなどの軽いスナックをつまむ習慣がある。

## ―社交的―

フィリピンの方は、とても優しく相手を思いやる心を強く持ち、フレンドリーな方が多い。初対面の人や外国人に気さくに挨拶やプライベートの話をするなどフレンドリーな国民性がある。

『マノ』もしくは『ブレス』と呼ばれる、相手の手をとって自分の額に当てる挨拶がある。友人では数回会ったくらいの間柄で、ハグや頬同士を合わせる風習がある。

## ―先スペイン期のフィリピン―

現代フィリピン人の大多数を占める祖先は、マレー人と考えられている。古代以来、マレー半島、スマトラ島から、段階的に、フィリピンへの移住が進んだ。

14 世紀～15 世紀、すでにイスラム教が浸透していたマレー半島、スマトラ島から移住してきたマレー人によって、フィリピン諸島にもイスラム教が広まる。

14 世紀後半にはフィリピン南部のミンダナオ島にはマギダナオ王国を建国した。1450 年頃はパレンバンから来たアブ・バクルが、イスラム国・スールー王国を建国。

現代フィリピンにあっても、イスラムのエリアがある歴史的背景は、この辺にある。

## ―スペイン植民地時代のフィリピン―

1521 年スペイン人マゼランのスペイン船団がフィリピンへ到達。ここから、フィリピンへのスペインの影響が始まる。

1543 年、ルイ・ロペス・デ・ビリャロボス率いるスペイン船団が、サマール島・レイテ島に到着。この島々に、スペインのフェリペ皇太子にちなんだ名前、「ラス・イスラス・フェリピナス（フェリペナス諸島）」と命名。

これが、現在の「フィリピン」の国名につながる。

1570 年、スペインは現在のマニラエリアを征服し、1571 年マニラ市を設置。当時のマニラには日本人も 20 人ほど住んでいた。1500 年代時点で、海洋で日本とフィリピンはつながっていた。

スペインは、フィリピンの原住民にカトリックを布教。フィリピンにキリスト教カトリックが広まる契機になった。

隣接したエリアには、「強力なイスラム国・ブルネイ」があった。1578 年、スペインは、イスラム国・ブルネイを打破した。これを契機に、フィリピン内のイスラム勢力も弱まり、カトリックが拡大する。

1592 年、豊臣秀吉時代の朱印船貿易が活発になる。日本人とスペイン商人の間で貿易業が盛んになる。貿易に従事する多くの日本人が、フィリピンを含む東南アジア各地に移り住み、日本人



町を形成。フィリピンにもマニラなどに日本人町が作られた。

### ーアメリカ統治時代のフィリピンー

1898年のアメリカ・スペイン戦争（米西戦争）でスペインは、敗北した。このときに、フィリピンはスペインからアメリカの覇権エリアになる。

アメリカは、アメリカ型の政治・司法・教育制度を、フィリピンに導入していった。経済的には、フィリピンはアメリカ資本の原材料の供給源、商品の市場となった。

### ー独立後のフィリピンー

1941年12月8日、日本と米英蘭間での太平洋戦争が勃発。1942年1月2日、日本軍はマニラを占領。アメリカがフィリピンから撤退したのちも、フィリピン人の一部は、ゲリラを組織して日本に抵抗。

1943年10月、日本はフィリピン安定化のために、ホセ・ラウレルを大統領とするフィリピン共和国の独立を承認。

1944年10月20日、アメリカ軍がレイテ島に上陸。その後、日本軍は1945年9月3日に降伏。

1946年7月4日、フィリピンは主権を獲得し、第3共和制が成立。第2次大戦直後から、フィリピン共産党の勢力も台頭した。しかし、その後、弱体化する。

1953年11月、マグサイサイが大統領に選ばれた。1961年にはディオスダド・マカパガルが大統領に選出された。

1965年、フェルディナンド・マルコスが大統領に就任。権力政治のもとでフィリピンを統治。マルコスは1969年に選挙で再選。1972年、マルコスは、国中に戒厳令を敷き、議会を閉鎖して、独裁を強化。軍が政府機能を掌握するシステムを形成。

マルコス政権の開発独裁は進み、自給自足農業、米の自給自足などが実現。外国資本の積極的な導入も推進。1970年代を通じて年6～7%のGNP成長率を達成。

## 7. スリランカ・ナヤニ氏と交流



スリランカからこられた、ナヤニ氏と交流した。ナヤニ氏は、「あーゆーぼーわん」という、スリランカ料理店を経営されている。

「あーゆーぼーわん」は、スリランカの言葉で「こんにちは」を意味する。

また、一步深く意味を探れば、「あーゆー」とは、スリランカのことばで「生命力」を意味することをおそわった。

ナヤニ氏のお話をうかがうなかで、生きるうえでもっとも大切なものは「生命力」だということを理解した。

「どんなことがあっても、たくましく生きようという生命力」がなければ、経済的、物質的に、どんなにゆたかになっても、幸福にはなれない、と悟った。

ナヤニ氏から、スリランカには、仏教、ヒンズー教、イスラム教の、グループがあることを習った。これら3つのグループの共生を粘り強く志向してきたのが、スリランカだった。3つのグループの共生志向を表現したのが、スリランカ国旗であることも知った。

「憎しみは憎しみでは解決しない、お互いに思いやり、歩みよることが大切」と訴えたのは、スリランカの指導者・ジャヤ＝ワルダナだった。スリランカには、スケールの大きな「寛容の精神」があることを習った。

ナヤニ氏から、パラタ、カトゥレット、ヴェジロティといったスリランカ料理をいただいた。



### ースリランカの正式名称と首都ー

スリランカの正式名称は「スリランカ民主社会主義共和国」である。首都は「スリジャヤワルダナプラコッテ」です。

### ースリランカ経済ー

スリランカの1人あたりのGDPは3162ドル。セイロンティーを初めとする紅茶やゴム、コーヒー、砂糖などの農産物の生産・輸出はいまだにスリランカにおいて重要な輸出である。近代は食品加工や電気通信、金融といった分野の重要性も増加している。

### ースリランカの歴史ー

最初にスリランカを訪れたヨーロッパ人は、ポルトガル人。1505年、スリランカが7カ国割拠の状態にあることを発見した。

1517年、ポルトガル人はコロomboに拠点を作った。次第に統治を沿海地区に拡大した。

1602年、オランダ人が上陸。1656年、オランダは、コロomboを占領。1658年にジャフナーパトナム近くの最後のポルトガル拠点を占領。1660年まで、内陸のキャンディ王国以外の島全体を支配。なお、オランダはプロテスタント国家。ポルトガルはカトリック国家であった。

1796年、イギリス人が、海岸地区を制圧。1803年、イギリスは初めてのキャンディ戦争でキャンディ王国に侵入。最後に撃退された。

1815年、キャンディ王国は第2次キャンディ戦争後に占領された。ここに、スリランカの独立が終わった。

イギリス人は、スリランカの高地でコーヒーやお茶やゴムの栽培に適していることを発見した。

19 世紀の中頃まで、セイロン茶はイギリス市場で、広まった。少数の白茶農家に大きな財産をもたらした。植生者はインド南部から大量のタミル人を契約労働者として輸入してこれらの莊園のために働き、タミル人はすぐに島の人口の 10% を占めた。

イギリス人はスリランカに、民主的な要素を導入。1833 年には、ポカ族が適度な自治を獲得した。1909 年になって、立憲的要素が発展し、選挙でつくられた議会が生まれた。実際、1920 年までに、「選挙によって選出された議員」の数が、官守議員の数を超えた。

第 2 次大戦のとき、スリランカはイギリスが日本に対抗する前線基地となった。1942 年 4 月 5 日、インド洋空襲で日本海軍はコロombo を爆撃。

1978 年、現在のスリランカが設立された。1978 年の新憲法は、スリランカの政治制度を変えた。フランスをモデルにする大統領制への転換である。大統領は直接選挙によって選出され、任期は 6 年間となった。

### ー ジャヤワルダナー

ジャヤワルダナは、世界で人間の共生、人間思いの政策を訴え奔走した指導者。スリランカの第 2 代大統領になった方である。

第 2 次大戦後、日本が国際社会に復帰する、1951 年のサンフランシスコ講和会議の場では、「憎しみは憎しみでは消えない。慈愛によって消えるのです」と、日本の国際社会への復帰を、全力で応援するスピーチをしてくれた。

ジャヤワルダナは、自分の死にさいして、自身の目のかくまくを、一つはスリランカの人に、もう一つは日本の人にあげてほしいと、遺言をのこすほどに生涯他者へつくす姿勢をつらぬいた。

ジャヤワルダナは、11 人兄弟の長男として、セイロンの最高裁判所判事の息子として生まれた。

ロイヤル・カレッジ・コロombo で学んだ。クリケットの選手としてロイヤル・トミアンに出場したこともある。

ジャヤワルダナは、キリスト教から仏教に改宗し、コロombo 法科大学で優秀な成績を修めて法律家となった。

1938 年、セイロン国家機構の活動家となった。1946 年、国民連帯同盟へ加入。1947 年に初代蔵相として入閣。1951 年には国際連合に蔵相として参加。

1951 年 9 月 6 日、サンフランシスコ講和会議にセイロン代表として出席し、演説したときに、ジャヤワルダナは「日本の掲げた理想に、独立を望むアジアの人々が共感を覚えたことを忘れないで欲しい」と述べた。

そして、「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」という法句経の一節を引用して、セイロンは日本に対する戦時賠償請求を放棄すると宣言した。

1977 年、スリランカの建国に貢献。姓のジャヤワルダナは「勝利をもたらす」を意味する。

1983 年、スリランカの首都をコロombo から古都コッテへ遷都するに当たり、コッテがかつてジャヤワルダナと呼ばれていたことに加え、彼自身の姓をも絡めて「スリジャヤワルダナプラコッテ」と改称の上、遷都された。



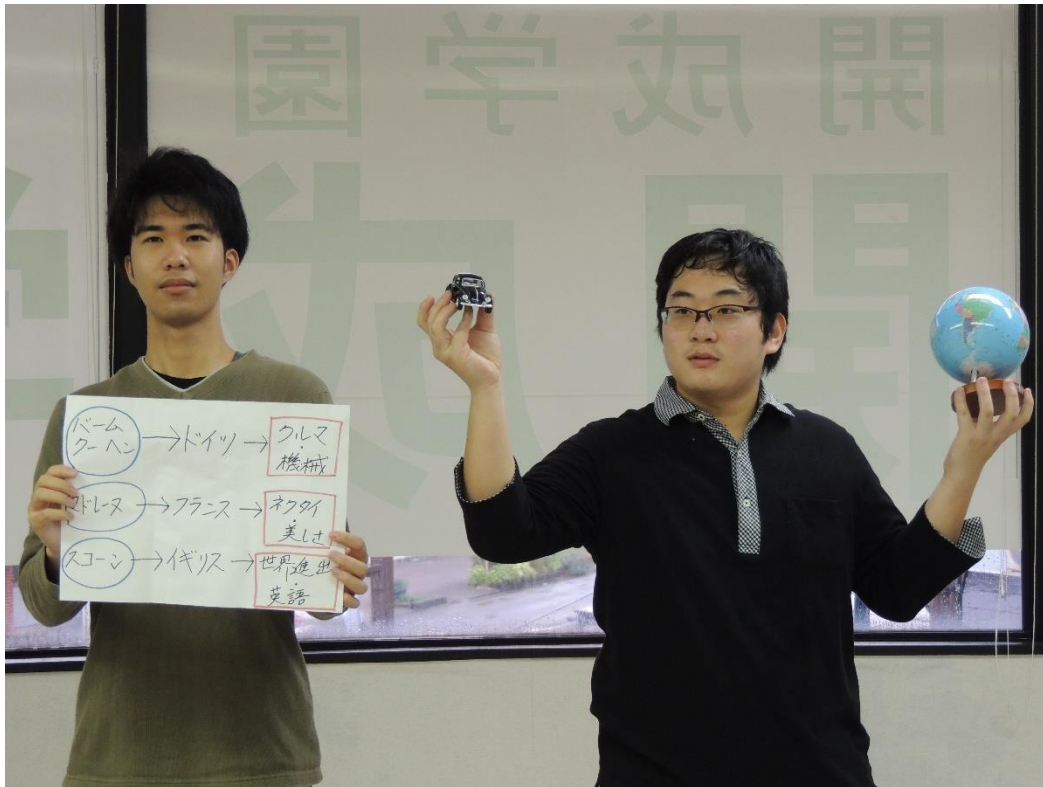
ジャヤワルダナが日本と初めて接点を持ったのは、1921年3月、当時皇太子であった昭和天皇を乗せた戦艦香取がヨーロッパ遠征の途中でスリランカに寄港したときだった。当時15歳だったジャヤワルダナ少年は、皇太子のお召艦を一目見ようと港に向かったという。

ジャヤワルダナは、閣僚・首相・大統領としてたびたび訪日した。さらに、政界引退後も日本を訪れている。日本の仏教関係者をスリランカに招待するなど、日本とスリランカの交流に尽力した。

1989年、昭和天皇の大喪の礼には、本人の希望により、プレマダーサ大統領に代わって参列。肩書きは「前大統領」だったが、元首級参列者・大統領同格の国賓として、接遇された。

1991年には日本の仏教関係者の招待で広島市を訪れた。広島平和記念資料館を見学。1996年、逝去した。

## 8. 国際理解推進活動Ⅰ：「お菓子を入口にして学ぶ欧州3大国」



世界に関する知識を、わかりやすく、親近感がわくようなかたちで、地域の方、特に、未来を担う若い世代に紹介したり、一緒に学習する、国際理解推進活動に挑戦した。

つくば開成高校で、ドイツ、イギリス、フランスの、食文化を入口に、国際理解推進活動を行った。テーマは、「お菓子を入口にして学ぶ欧州3大国」。

「バウムクーヘンをうみだしたドイツは、機械につよい国なんですよ」と語り、バウムクーヘンとクルマの模型をしめしながら、ドイツを紹介した。

「マドレーヌをうみだしたフランスは、ファッションやデザインにつよい、美の大国なんですね」と話し、マドレーヌとネクタイをしめしながら、フランスの人々の美への意識の高さを解説した。

「スコーンをうみだしたイギリスは、世界に果敢に出ていった、海洋国家だったんです」と解説し、スコーンと地球儀をしめしながら、イギリスの海洋進出について一緒に学習した。

## ードイツー

ドイツでは、ゲルマン人は紀元前までこの地域に住んでいた。2 世紀から 3 世紀にかけて徐々に部族が形成された。481 年、クローヴィスがフランク王国を建国。843 年、「ヴェルダン条約」が調印され、フランク王国は東、中、西の 3 つの部分に分裂された。

その中でイーストフランクは次第にドイツ王国へと発展。962 年、ドイツの初期の封建国家である「神聖ローマ帝国」が形成された。

1806 年、ナポレオンが神聖ローマ帝国を解体。

1815 年のウィーン会議の後、オーストリアはドイツ連邦を設立。

1866 年、プロイセンはオーストリアを破り、ドイツ連邦は解体。翌年、プロイセンは北ドイツ連邦を樹立。

1871 年、プロイセンはドイツ諸国を統一しドイツ帝国を樹立。

ドイツ帝国は 1914 年に第一次世界大戦を開戦し、1918 年に敗北。

1931 年、ヒトラーが権力を握る。その後、第 2 次世界大戦に突入。1945 年 5 月 8 日、ドイツは敗北。戦後、ドイツはアメリカ、イギリス、フランス、ソ連に占領される。

その後、ドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国が樹立され、ドイツは 2 つの主権国家に分割された。1990 年 10 月 3 日、ドイツは再統一された。

## ードイツの産業ー

ドイツの主要な産業は、エレクトロニクス、航空宇宙、自動車、精密機械、機器製造、軍事産業等。

ドイツ製品は、優れた品質、高度な技術、精巧な仕上がりで有名。ドイツの工業製品は世界で高い評価を得ている。ドイツはヨーロッパ最大の経済大国。GDP は世界第 4 位。

ドイツは、世界有数の貿易大国。主な輸出製品は、自動車、機械製品、化学製品、通信技術、電力供給および配電機器、医療および化学機器等。主な輸入品は、化学品、自動車、石油、ガス、機械、通信技術、鉄鋼製品。

主要貿易相手国は西側諸国で、輸出入の半分以上が EU 諸国からのものとなる。

## ードイツの福祉ー

ドイツの福祉は、1883 年のビスマルクの社会保障法に始まる面がある。ドイツは、世界で最も古い国民皆保険制度をもつ国である。ドイツは、社会的連帯と相互扶助を強調する。政府は、制度設計や関連法規の策定、仲介や仲裁、利益相反への対処などを推進。政府の介入と市場の活力のバランスをとろうとしている。



### ードイツの科学・教育ー

ドイツの科学への取り組みには、歴史がながい。業績は非常に目覚ましく、研究開発への投資は経済全体の一部である。

100 人以上のドイツ人がノーベル賞を受賞。ドイツは、物理学、化学、生理学、医学などの科学分野で多くのノーベル賞を受賞し、世界に貢献している。

### ーフランスー

フランスは、大陸欧州に国土をもつ「大陸国家」と同時に、英仏海峡、大西洋、地中海に接する、5,500km の海岸線に囲まれている「海洋国家」でもある。

### ーフランスの歴史ー

「フランス」という国が誕生したきっかけは、843 年に「カロリング朝フランク王国」という国が分裂したことによる。この時期、イタリアやドイツの原型も誕生。

その時期にできた「西フランク」という国が、現在のフランスのベースとなっている。西フランクという国が「フランス」と呼ばれるようになったのは、987 年にカロリング朝王家が途絶えて、パリ伯ユーグカペーという人が王に選ばれた時からであった。

ルイ 14 世のとき、絶対王政政策が発展し栄える。ヴェルサイユ宮殿が造られたのもこの時代である。しかし、1700 年代後半に傾きはじめる。ルイ 16 世のとき、バスティーユ牢獄を民衆が襲った革命が起こり、絶対王政が崩壊。フランス革命である。

## 9. 国際理解推進活動Ⅱ：「こんなにあるフランスのお菓子。フランスってどんな国」



葵高等学院で、「フランスのお菓子とケーキ」を入口に、国際理解推進活動を行った。テーマは、「こんなにある、フランスの、お菓子とケーキ。フランスってどんな国」。

ダックワーズ、ディアマン、モンブラン、ショコラ、タルト、ブッセ、ムラング、フロランタン。すべて、フランス語。フランスには、世界一のお菓子、ケーキの文化があることを、伝えた。

また、ポール・セザンヌ、アルフレッド・シスレー、ジャン＝バティスト・カミーユ・コロセ、クロード・モネの作品を紹介し、フランスの美術の良さを語り合った。

さらに、ワイン、ファッションなど。フランス文化の世界への影響についても、皆でディスカッションした。

### ーフランスの経済・社会ー

フランスでは農業が盛んである。EU(ヨーロッパ連合)の中で最大の農業大国といえる。

フランスは、ユネスコの世界遺産登録をされている建物が多い。この背景から、年間観光客数は世界一。フランスは観光大国である。

日本には浮世絵や工芸品が存在することにより歴史や文化を大切にしているフランスではジャポニズムと呼ばれる流れが誕生している。日本独自の物が西洋の国では高く評価されたのである。

### ーフランスの美食文化ー

フランスから生まれた食べ物は多くある。そのなかで有名な食べ物は「チーズ」である。フランスは地域ごとで作るチーズが違う。そのなかでも有名なチーズは、白カビと牛乳を使う「カマンベールチーズ」。

アオカビと羊乳使うことで、塩辛く、クリーミーな甘みをもつ「ロックフォール」。山羊の乳で作られ、白カビと合わせることで癖になる味の「シェブル」。この3つがフランスで生まれ、世界的に有名なチーズである。

お菓子は、マカロン、ショコラ、シュークリーム、クレープ、ガトーショコラ、エクレア、モンブラン、ミルフィーユ、カヌレ、マドレーヌ、タルト、ババロアといったものがフランスで生まれ、世界で愛されているお菓子。

フランスの食文化は「味」と共に「デザイン」が重視される。歴史的にも、「パティシエ」(菓子製造人)は王様に料理を献上するとき、「味」だけでなく「デザイン」も洗練された上品なものにしないと、工夫をこらした。

### ーフランスのファッション文化ー

「ファッション」について。フランスは、日本では「パリコレ」と略されている「パリ・コレクション」の開催地である。

世界的有名ブランド、「シャネル」、「ルイ・ヴィトン」、「エルメス」はフランスで生まれた。そこで、フランスの歴史からファッションの歴史を振り返ってみる。

フランスのファッションが発展したのは17世紀。ルイ14世の絶対王政の時代から。

この時代は、大貴族が自分の権威の高さをアピールするため、服にお金をかけるようになった。

ルイ16世の妃であるマリー・アントワネットが服装に浪費したことで財政が破綻し、処刑され

る結末は有名。

1910 年、最初の「パリ・コレクション」が開催された。「高級仕立服」を意味するのが「オートクチュール」。

1950 年以降、服の大量生産が始まる。1970 年代、「高級既製服」を意味する「プレタポルテ」という言葉が広まるようになる。

「オートクチュール」と「プレタポルテ」はフランスのファッションのセンスの高さを象徴する言葉かもしれない。

### ーフランスの美術館ー

フランスには有名な画家と美術館が多い。美術館は作品だけでなく、外装や内装もきれいな美術館が多い。有名な作家の作品が展示されている博物館を一部紹介する。

★オルセー博物館（パリ）…ヴァン・ゴッホ『自画像』、ポール・セザンヌ『リンゴとオレンジ』、アルフレッド・シスレー『ルヴシエンヌの雪の道』。

★ルーヴル美術館（パリ）…ジャン＝バティスト・カミーユ・コロドー『真珠の女』、ウジェーヌ・ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』、レオナルド・ダ・ビンチ『モナ・リザ』。

★マルモッタン・モネ美術館（パリ）…クロード・モネ『睡蓮』、『印象・日の出』、ピエール＝オーギュスト・ルノワール『クロード・モネの肖像』。

★ヴェルサイユ宮殿美術館（パリ）…イアサント・リゴー『ルイ 14 世肖像画』、ヴィジェ・ルブラン『マリー・アントワネットと子供たち』。

★グルノーブル美術館（グルノーブル）…マルク・シャガール『夏の夜の夢』、アメデオ・モディリアーニ『白い襟の女』。

### ーフランス絵画の「印象派」と「ポスト印象派（後期印象派）」ー

フランス画家の作品は印象派とポスト印象派（後期印象派）に分かれている。

印象派は 19 世紀後半に流行した絵の描き方。特徴は、主に風景画を描き、人物や物をはっきり書かずに、自分の目で見たものを書く手法。

有名な画家と作品の例は、クロード・モネの『印象・日の出』、ピエール＝オーギュスト・ルノワールの『ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会』などがある。

ポスト印象派（後期印象派）は、19 世紀末から 20 世紀初頭に流行した絵の描き方である。特徴は印象派と違い、単色とはっきりした色彩で描きたいものを描く手法。有名な画家と作品の例は、ポール・セザンヌの『リンゴの籠のある静物』、ポール・ゴーギャンの『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか』、ヴィンセント・ファン・ゴッホの『ひまわり』が代表的なものである。

フランス・パリの街は芸術であふれている。芸術作品のレベルが高い。フランスの長期に渡って発展させてきた「美の文化」は、世界の人たちに感動を与えている。

## 10. ユニセフへの協力



戦争、内戦など、世界の不安定状況で、最も被害をうけるのは、世界の子どもたちである。

国際連合児童基金（ユニセフ）は、開発途上国の現状、戦争、内戦などで、被害を受けている子どもたちを支援する国際機関。

第2次大戦後、長期にわたり世界の子どもたちを支援してきた。1965年ノーベル平和賞を受賞。わたしたちは、ユニセフへの支援活動、募金活動を行った。

### —保健活動—

世界で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間520万人。その原因の多くは安全な水やワクチンがあれば防ぐことができるものである。

ユニセフは、すべての子どもが、乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っている。

### —水と衛生—

子どもたちが生きていく上で、水と衛生は大きな問題です。汚れた水や不衛生な環境は、感染症を引き起こします。幼い子どもたちのなかには、下痢などで命を落としてしまうことも少なくありません。

ユニセフは、清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作ったり、衛生的な生活が送れるようトイレを設置したり、学校教育や保健所を通じて、石けんを使った正しい手洗いなどの衛生習慣を広めるといった活動をすすめている。

子どもたちが安全な水や衛生施設にアクセスできれば、単なる生活の向上に限らず、健やかに成長し、教育を受け、明るい未来を持つ機会が得られる。

## —栄養—

良い栄養は、子どもの生存と発達の基礎となる。栄養状態の良い子どもたちは、健やかに成長し、学んだり、遊んだり、地域社会に参加したりできる。また、病気などで危機的状況に陥っても、回復する力を持つ。

現在、世界の多くの子どもたちが、必要な栄養を摂取できていない。栄養不良の子どもは健康に育つことができないだけでなく、感染症にかかりやすくなり、命さえ落とすことがある。

また、栄養不良がもたらす知能や身体の高成長の遅れは、成長した後もずっと子どもたちの人生を脅かし続ける。

そのため、栄養分野への投資は重要な開発優先事項とみなされている。

## —教育—

教育は基本的人権であり、質の高い教育は個人および社会全体の発展と豊かな暮らしのために必要不可欠。

2018年時点で、約5900万人の子どもたちが小学校に通っていない。ユニセフは、すべての子どもたちに質の高い教育を提供すること、あらゆる種類の差別と不公平を撤廃することに重点を置きつつ、教育支援を推進している。

## —インクルージョン活動—

「インクルージョン」とは「誰もが受け入れられる社会」を意味する。

ユニセフは、インクルージョンを様々な形で推し進めている。

民族やジェンダー、障がい、その他様々な要因で起こる個人への差別、排除といったものをなくし、寛容の心で、共生し、誰もが受け入れられていることを、実感する社会を目指している。

## —ジェンダーの平等活動—

ジェンダーは、何が女性的で、何が男性的かを表す、社会的・文化的に構築された概念。社会で構築されたルールや習慣は、女性を教育や社会参加などから遠ざけ、未来への可能性を閉ざしてしまう要因にもなる。

ユニセフは、平等と無差別という基本的人権の原則を、ジェンダーの平等を考える柱として認識し、ジェンダーの平等を推進している。

各国における支援プログラムを通して、女性と女の子が、コミュニティの政治的、社会的、経済的な発展に、全面的に参加できるよう支援している。

特に教育分野においては、女の子や男の子に関わらず、すべての子どもが教育の機会を得られるように取り組んでいる。

## —緊急人道支援—

紛争、自然災害、感染症の蔓延など。そうした緊急事態や人道危機の中で、最も犠牲を強いられるのは、いつも子どもたち。

1946年に誕生したユニセフ(国連児童基金)の最初の役割も、子どもたちへの人道支援だった。



当時、第 2 次世界大戦の影響をうけた国々では、多くの子どもたちが家族を失い、家を焼かれて町をさまよっていた

それから 70 年以上が経った。しかし、世界には今なお、紛争や災害によって、心身ともに傷つき、教育を受けられず、さまざまな困難に直面する子どもたちが多くいる。

また近年の人道危機は、規模の拡大、長期化、複雑さが増す傾向にあり、長期に渡って子どもやその家族が重大な危険に直面している。

ユニセフは創設以来、どんなに厳しい状況でも、子どもたちの命と子どもたちの権利を守るために活動を続けている。

世界中から寄せられた活動資金をもとに、保健、栄養、水と衛生、子どもの保護、教育、などの各分野における支援活動を実施している。

支援物資は、コペンハーゲンにあるユニセフ物資供給センターをはじめとする、各地の供給拠点から、ニーズに合わせて迅速に届けられる物流システムが構築されている。一刻を争う緊急事態下において重要な役割を果たしている。

## 11. 姉妹都市を通じた国際交流の推進

国家間摩擦、侵略、戦争といった悲劇をおこすのは、政治、外交、軍事といった「ハイ・ポリティクス」の領域。

しかし、世界には、平和を願う地域の人々による、多くの「姉妹都市関係」を通じた、自発的交流、「グラスルーツの領域」がある。

たとえば、長岡市は、アメリカのホノルル市、フォートワース市、ドイツのトリアー市などと姉妹都市関係にある。

南魚沼市は、ノルウェーのリレハンメル市、オーストリアのセルデン市などと、姉妹都市関係にある。

三条市は、カナダ・オンタリオ州・バーン市と、姉妹都市関係にある。見附市は、ベトナムのダナン市、ブラジルのマイリンケ市と姉妹都市関係にある。

新潟市は、ロシアのウラジオストク市・ハバロフスク市、中国のハルビン市などと、姉妹都市関係にある。

ゼミ生は、各自の地域の姉妹都市を通じた国際交流に、チャレンジした。ゼミ生全員が、自分が所属する市に関しての姉妹都市の状況を調査し報告した。

ゼミ生は、自分たちが今住んでいる市、地域が、独自に国際的な関わりを持っているという事実を知り感銘した。そして、姉妹都市にネット上でメッセージを送るなどして、交流に挑戦した。

### —姉妹都市の価値—

姉妹都市とは一体何かと、考えた。姉妹都市とは、文化交流や親善を目的とした国際的な 2 国間の都市関係のことで、友好都市や親善都市とも言われている。



姉妹都市のメリットは、大きい。姉妹都市関係を結ぶことで、文化交流や人間交流が進み、世界平和、人類共生の前進につながるからである。

さらに、地域企業などの海外進出のきっかけになるかもしれない。

### ー長岡市の姉妹都市ー

長岡市の姉妹都市。長岡市は様々な都市と姉妹関係を結んでいる。

1 つ目の都市はフォートワース市。フォートワース市はアメリカ合衆国テキサス州北部タラント郡にある郡庁所在地の都市。

フォートワース市は米国で 12 番目に人口が多い都市で、モビリティ、高度製造業、輸送、テクノロジー、ヘルスケアといった主要産業に優れている都市。そして、米国で最も人口が急速に成長している都市ともいわれている。そんなフォートワース市と長岡市が姉妹都市関係を結んだ経緯は、長岡市制施行 80 周年の記念事業の 1 つとして姉妹都市関係を結ぶことが上げられた。

長岡市がいくつかの候補市をあげて、外務省や国際親善都市連盟、アメリカ大使館に紹介を行った。

その結果、いち早く長岡に関心を持っているという返事をもらったフォートワース市と 1987 年 11 月 9 日に姉妹都市を結んだ。

その後、青少年の教育交流を中心に、スポーツ・文化など幅広い分野での交流を展開している。フォートワースとの友好提携を通じ、国際理解や世界平和に貢献したとして、また同市との青少年交流を高く評価され、ワシントン DC に本部を置く国際姉妹都市協会の全米最優秀姉妹都市賞を 2 回受賞した。

2 つ目の都市はホノルル市。ホノルル市はアメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にある都市でハワイ州最大の都市。ホノルル市はかつてハワイ王国の首都があったことや、アメリカの太平洋側の地域における経済や政治、文化の中心であり、太平洋上の交通の要所として港や軍事基地、国際空港などがある。

1 年を通して温暖な気候であり、日本人をはじめ世界各国から多くの観光客が訪れている都市。

そんなホノルル市と長岡市が姉妹都市関係を結んだ経緯は、2007 年にホノルル市と長岡市が相互に理解を深めることは、日米友好のさらなる発展に貢献できると長岡市の市長が平和をテーマとした両市の市民交流を行いたいとホノルル市に申し入れ、市長から快諾をもらったことから、両市の交流がスタートした。

2012 年 3 月に長岡市公式訪問団がホノルル市を訪問。3 月 2 日に姉妹都市関係を結んだ。そして、中学生海外体験ホノルルや学生平和交流ホノルル、ホノルル高校生受け入れなどの教育交流事業を行っている。

3 つ目の都市はトリアー市だ。トリアー市は、ドイツ西部のライプツィヒ州西部の都市でローマ遺跡群など世界遺産がある都市。そんなトリアー市と長岡市が姉妹都市関係を結んだ経緯はアメリカのフォートワースと交流していく中で長岡市は、ヨーロッパへも交流を拡大しようとして調査・検討していた。

その過程で長岡市がフォートワースと姉妹都市の調印をした 1987 年 7 月に、フォートワースと姉妹都市関係を結んだドイツのトリアー市と、フォートワースを仲立ちとして友好関係に発展

した。

そして 2006 年に長岡市とトリアー市は姉妹都市関係を結んだ。その後、青少年国際キャンプやトリアー市民訪問団受入などの国際交流を行っている。

### ー南魚沼市の姉妹都市ー

南魚沼市も長岡市と同様に様々な国の都市と姉妹都市関係にある。

1 つ目の都市は、リレハンメル市。リレハンメル市はノルウェーの都市であり 1994 年に冬季オリンピックが開催されたこともある都市。

そんなリレハンメル市と南魚沼市が姉妹関係を結んだ経緯は、ノルウェー王国と親交のあったシャトー塩沢スキー場の取り計らいがあり、冬季観光地としての諸条件や自然環境が似ているということから、姉妹都市関係を結んだ。

その後、リレハンメル市の福祉施設を見学を行うなどの交流事業を行っている。

2 つ目の都市は、セルデン市。セルデン市はオーストリア共和国チロル州イムスト郡のエッツタールにある都市。オーストリアの観光地であり、スキーリゾートである都市。

そんなセルデン市と南魚沼市が姉妹都市関係を結んだ経緯は、南魚沼市にある石打丸山スキー場でオーストリア出身のスキーの名手が滑ったことで有名であることから、石打丸山観光協会と地元自治会である石打区が中心となり、姉妹都市関係を結んだ。

その後、お互いの都市の訪問団を派遣し合うなどの国際交流を行っている。他にもニュージーランドのアシュバートン市などの都市と南魚沼市は姉妹都市関係にある。

### ー新潟市の姉妹都市ー

新潟市と姉妹都市関係にある都市のひとつが、ハルビン市。ハルビン市は、中華人民共和国黒竜江省に位置する都市。経済や財政等の面で省レベルの権限をもつ副省級都市に指定されている。中国東北地方北部の政治、経済、文化、金融の中心を担っている都市。

ハルビン市と新潟市は、1979 年 12 月に姉妹都市となる。ハルビンの交響楽団が新潟市で演奏したり、新潟市がハルビン市に苗木を送ったりと、様々な交流事業が行われている。

新潟市は、アメリカのガルベストン市、ロシアのハバロフスク市などとも、姉妹都市関係を結んでいる。

今回、各地域の姉妹都市の国際交流を調査することにより自分たちが今住んでいる都市が国際的な関わりを持っているということを知る大きなきっかけになった。このきっかけを今後も生かし、様々な国際交流について学びその経験を生かしていきたいと考えた。

## 12. Live together on the beautiful earth

第 2 次大戦後、40 年以上続いた深刻な国際的対立、冷戦。いくたびか全面核戦争勃発の危機すらあった、事実上の第 3 次大戦である。

冷戦のまっただ中であって、全面核戦争の危機を回避させ、世界平和へのリーダーシップを発揮したのが、旧ソ連の指導者、ゴルバチョフだった。

ゴルバチョフは世界をかけめぐり、「美しい地球で共に生きていこう (Live together on the beautiful earth)」と、人類共生の希望を、指導者、人々に粘り強く訴え続け、冷戦を終結し、世界平和への道をひらいた。

わたしたちは、Live together on the beautiful earth！という、人類共生のスローガンを、地域から世界に訴えて行きたいと思う。

### ーゴルバチョフー

2022年9月、旧ソビエト連邦大統領であったミハイル・ゴルバチョフ氏が死去した。

彼は第2次世界大戦後、アメリカ中心の西側諸国とソビエト連邦を中心とする東側諸国、資本主義圏と社会主義圏に世界が分断され争った、冷戦を終結に導いた人物であった。

1990年にノーベル平和賞を受賞している事実は、歴史的にゴルバチョフの行動が評価されていることを、物語っている。

一方、ロシア国内では、ゴルバチョフの功績に対して、否定的な見解もある。ペレストロイカ、新思考外交、社会改革など、大胆に方向転換を図った結果、政治、経済、社会の動きを制御することが出来なくなってしまった。そのことが、ソビエト連邦自体の崩壊に結びついているという見方もある。

ゴルバチョフは、世界的スケールの外交では成果を上げたが、内政では成果を上げることが出来なかった。

しかし、ゴルバチョフが持ち続けていた、グローバルな視点、人類視点というものは、卓越したものであったし、それら稀有な視野、思考からの、世界的スケールの行動は、「一国の指導者」という枠をこえたものだった。

ゼミ生は、ゴルバチョフが掲げた、Live in together on beautiful earth という人類共生の思想を忘れず、今後も地域から、国際交流活動、国際理解推進活動を続けて行こうと決意した。

### おわりに

今年度は、「人類共生」というサブテーマを掲げ、複数の活動を行った。

第1に、スペイン、ネパール、アメリカ、バングラデシュ、フィリピン、スリランカといった、6ヵ国から、わたしたちの地域に来てくださった方と、密度の濃い人間交流を行った。誠実に、率直に、楽しく対話や議論を行った。

第2に、国際理解推進活動を、つくば開成高校と葵高等学院の生徒の皆さんを対象に、行った。お菓子や模型、世界地図などを持参し、わかりやすく、世界を伝えた。

第3に、世界の子どもたちを応援するユニセフへの協力に挑戦した。世界には、こんなにも気の毒な環境で生きている子どもがいることに、当初、悲しくなったが、負けないで、募金活動を行った。

第4に、姉妹都市を通じた国際交流の推進にチャレンジした。ゼミ生全員が、自分が所属する姉妹都市を調べ、報告し、ネット上での自発的交流に挑戦した。

全ての活動を、Global-related として、全員が関連事項の学習に取り組み、学習した知識、情報を、自由に研究発表し、Global liberal arts として共有した。

その結果、全員が知的レベルアップをはかれたと考える。

## 謝辞

今年度のゼミ活動にお力添えして下さった方々、全員に御礼申し上げます。長きに渡りゼミのアドバイザーを請け負っていただいている、グリーン・フィロソフィー代表大出恭子様、フェアトレードショップ・らなあぷうオーナーの若井由佳子様には、最初から最後まで細部に至るまで、ご指導して頂きました。

重ねまして、今年度ゼミ活動にご協力して下さいました皆様全員に御礼申し上げる次第であります。